

平成29年度第2回社会教育委員会議抄録

日 時：平成29年5月16日（火） 13時30分～14時30分 会議

15時00分～16時30分 研修会

場 所： 西宮市教育委員会 3階 大会議室

〔出席委員〕

伊 藤 篤	羽 田 英 彦
高 瀬 秀 紀	中 野 睦 子
東 久 仁 夫	川 本 輝 子
片 山 幸 代	和 久 田 純 子
工 藤 好 彦	小 林 節 子

〔行政出席者〕

山本 教育次長	上田 社会教育部長
中島 社会教育課長	中村 学校教育課長
中尾 放課後事業課長	野田 人権教育推進課長
合田 文化財課長	井上 中央公民館長
北 中央図書館長	中西 北口図書館長
牧山 青少年育成課長	石飛 青少年補導課長
藤網 生涯学習推進課長	坂井 社会教育課係長
酒井 社会教育課係長	今福 社会教育課副主査
谷池 社会教育課主事	木村 社会教育課嘱託員

署名委員

\_\_\_\_\_ (印)

\_\_\_\_\_ (印)

平成29年度 第2回社会教育委員会議抄録

議長	定刻になりましたので、ただ今より平成29年度第2回社会教育委員会議を開会させていただきます。
事務局	本日の出席者は10名です。本日の傍聴はありますか。
議長	ございません。
事務局	本日は、1時間ほど会議をしました後に、1時間半の研修を予定しております。
事務局	『「地域住民との協働を推進する社会教育の役割」～人づくりにつながる地域づくりへ～』と題して、ご講演をいただきます。地域住民との関わりも含めた講演となりますので、今回の答申書作成へ向けて何か参考になればと思います。
事務局	質疑応答のお時間も設けておりますので、委員の皆様からも是非、答申へつながるようなご質問をしていただけたらと思います。
事務局	さて、今回の答申の参考になるかと思いますが、前回、ご説明できませんでしたが、「西宮コミュニティ協会」へのアンケート調査について、事務局より簡単に説明をお願いします。
事務局	「資料2」をご覧ください。1月26日の「西宮コミュニティ協会（理事研修会）」に出席し、25地区の理事の方へ、アンケートを実施しました。回答の集計について、説明いたします。
事務局	「活動拠点はどこか」の問いについては、公民館が多く次に市民館でした。
事務局	「なぜその拠点を利用するのか」の問いについては、地域諸団体活動の拠点であることや、校区の中心に位置していることなどから利用しやすいという回答でした。また、広田地区はそのような拠点がなく苦慮しているとの回答でした。
事務局	「活動拠点の良い点」については、公民館・市民館は利用料が無料であり駐車場があるというところでした。「活動拠点の課題」は、公民館や市民館以外の拠点では資料の保管場所がなく不便であるとのことでした。
事務局	「活動をするうえで地域団体と連携しているか」については、自治会・自治連合会や青愛協、社会福祉協議会とは連携が多く、大学は少なく、NPOや企業は0（ゼロ）であることが分かりました。「各団体間で連携していく上での工夫」については、役割の分担や事業スケジュールを事前に調整しておくことや、長期計画をつくり定例化させること、情報提供をまめにする、コミュニティ協会理事と自治会長の兼務によりうまく連携できているという回答がありました。「連携していくうえでの課題」としては、活動拠がないところはコミュニケーションがとりにくい、役員の高齢化・固定化で次への継承が難しいとの回答が多くありました。
議長	ありがとうございます。何かご質問などはありませんか。
委員	(なし)
議長	それでは議事の次第に従いまして協議に移ります。
議長	議案第1号「答申書骨子案について」です。
議長	これまでの審議より、答申書の骨子について事務局をとおして作成をしているところです。事前に皆さまへもお送りしておりますが、全体の構成や、各章について、ご意見がございましたら本日はいただき、更に整理をしていきたいと思っております。
議長	それでは、「はじめに」では、諮問を受けたこと、及びこれまでの答申書や意見書についてのつながりなどを記述しています。
議長	次に、「第1章」では、「本市における現状と課題」を示しています。補足ですが、9ページに掲載しています、『現状と課題』の『(1)人口と世帯数

	<p>等の推移』については、今後、最新のデータに差替える予定です。また、『(2)の地域コミュニティにある課題』については、これまでの会議や意見確認書、グループ討議などから出た課題を箇条書きにしておりますが、今後、文章にしていきたいと思います。</p> <p>「第2章」では「国の捉え方」、「兵庫県の捉え方」、「西宮市の捉え方」を示しています。</p> <p>「第3章」では、諮問の中で示された「活力を維持・発展し続けていくコミュニティ（豊かなコミュニティの姿）」とは、どのような特徴を持つのかを検討し、「第4章」で本市の地域活動団体や具体例などを紹介しています。</p> <p>「第5章」では、『具体的な方策』の『本市が取り組むべき今後の方向性』については、これまでの会議や意見確認書、グループ討議などから出たご意見を箇条書きにしておりますが、事例で分かったこととの対応付けができるような形で整理をしていきたいと思っています。</p> <p>最後に、資料編として、市内の主な地域活動団体等の紹介や、これまでのヒアリング実施状況などを掲載する予定です。資料編は本日まだお配りしておりません。「おわりに」は、副議長に作成いただきたいと思っています。</p>
委員 議長	<p>まずは、全体の構成や流れ等につきまして、何かご意見等はございますか。 (なし)</p>
	<p>「第5章 (1)本市が取り組む今後の方向性」については、答申の提言につながる部分になります。社会教育が果たす役割として、各団体や行政がどういふことをしていく必要があるのかというまとめになります。「(1)今後の方向性」は「(2)の具体的な方策」に入れることもできるのかなとも思います。</p> <p>それでは、これまでのご意見をまとめますと、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ Aグループの発表でも出ましたように、①場づくり、</li> <li>・ 副議長が前回の会議でも言われましたように、②コーディネート機能、</li> <li>・ Bグループの発表でも出ましたように、③啓発や学習に関する情報戦略</li> </ul> <p>の3つの方向性にまとめられるのではと思いますが、いかがでしょうか。</p>
委員 議長	<p>「場づくり」・「コーディネート機能」・「しくみ」・「情報戦略」の4つにまとめられると考えていました。</p> <p>「しくみ」と「情報戦略」は独立したものでしょうか、並行したものでしょうか。</p>
委員 委員	<p>独立したものだと思います。</p> <p>事例が6つありますが、(1)～(3)に分けられており、ここと「今後の方向性」が連動するのではないかと思います。今後の柱にしてみてもいいと思います。</p>
議長	<p>最初に我々が掲げた、「どういうコミュニティか」がそれに対応させる形で事例では(1)～(3)という構成になっているので、今後の方向性についても対応させてはということですね。その中で、複数の団体を横でつなぐコーディネート機能・情報戦略・場づくりは具体的な方策の中に入れていくというのが一つかなと思います。</p>
委員	<p>横のつながりをもつコーディネーターが必要といっても、団体のコーディネーターとは、どのようなものになるのでしょうか。神戸市北区の「まちづくり協議会」では、住民の生活に直結したことについて、いろいろな団体が入っており、コーディネーターが活躍しています。各地域でやる人をしっかりと決めないといけないと思います。今は、具体的な指示がなく、抽象的に終わっているかと思っています。</p>

議長	それは、まだ作成できていませんが、(2)の具体的な方策へこれから記入していくところです。
委員	各団体が多くあり、それぞれ活動をしています。これら団体をまとめてコミュニティとしてコーディネートすることは、大きすぎて地域性もありますし、どのようにもっていくのがよいのかなと思います。
議長	団体の人たちの声などが入ると流れとしてはよくなると思います。団体に対するアンケートや結果などはありますか。
事務局	今回報告しましたコミュニティ協会のアンケートと、一昨年度の青少年愛護協議会や教育連携協議会へのアンケートは実施しておりますので、そこから引用できるかと思います。
委員	縦割りをもう少し横に連携し、活動が少ないところは吸収・縮小して連携するともっとよいものができるのではと思います。
委員	活動をコーディネートする人、地域の中で横串をさす人をつくっていかねばならないと思いますが、地域でどの団体が中心になればよいかがこのからの課題となってきます。具体的な話ができればよいと思います。
議長	具体的な方策のところ、もう一度グループ討議ができればよいですね。
委員	「本市の捉え方」を読んでいて、「子供は学校で学び、地域で学ぶ」とありますが、地域で学ぶとは具体的にどういうことなのかと思います。自治会でうまくいっているところは引継いでいく人材、長く続けていける人材が必要だと思います。つながりは放っておいてもできません。自治会は、当番制になっているから、やむを得ず、次は自分だという意識こそが組織に対する意識づけだと思います。関わりを持つからつながりができるのだと思います。
委員	コーディネートづくりをどこが中心になってやるのか。個人なのか組織だったものがコーディネートするのも機能を発揮する組織をつくっている団体もあると思います。ある個人が責任感を持って団体を結びつけてコーディネートしているところがあれば、コーディネートをする組織を持っている地域もあります。どこがやっているかを紹介できるとよいと思います。地域の人だけでなく、行政が後押しした入り方をして課題についてうまくいっている例もあります。
委員	場をつくる、参加をしてもらうことが課題となっていますが、参加しない人は、「どうしてコミュニティが必要なのか」が理解されていないと思います。なぜ今必要かかということを盛り込んでいくと、具体的な方策が出てくると思います。
議長	コミュニティが必要でないという人に対して、必要であるということをどのように知らせるかということが、具体的に書かれてあるとよいですね。
副議長	活力を維持発展していくためには、14ページの「3つのコミュニティ」だと捉えて、「地域の人々とのつながりはどうすれば生まれるのか」とあり、次に「多様な主体とは」に続き、「具体的な方策」として私たちが意見したことが書かれてあります。「こういうことが地域のつながりの要因だ」というものを、団体から感じて受取りましたというようにまとめたうえで、「具体的な方策」の方へつなげていくとよいと思います。
議長	一つひとつの事例の最後に、「地域のつながりがうまくいっている要因として、こういうことが読み取れた」ということを書いていくとよいのではと思います。
	それでは本日のご意見を元に、答申案を改めて整理していきたいと思ます。
	それでは、本日の会議は、これで終了いたします。 以 上